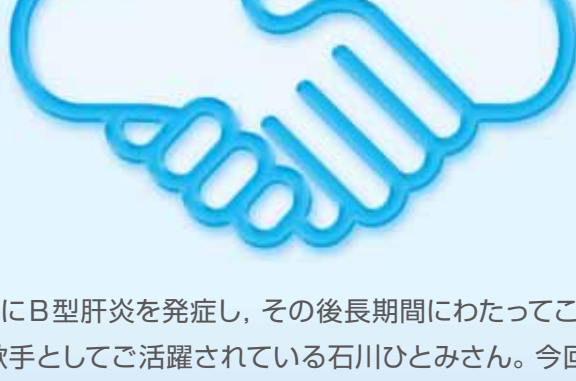


いま求められる

# “かかりつけ医”

家族全員の健康をサポートするホームドクター



アイドル時代にB型肝炎を発症し、その後長期間にわたってこの病気と付き合いながら歌手として活躍されている石川ひとみさん。今回は、理想とする“かかりつけ医”を求めて千葉市を訪れ、近隣の皆様のかかりつけ医として活躍されている千葉マリクリニックの吉川先生にお話を伺いました。

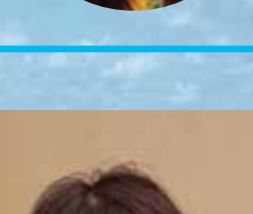


お話

**吉川真太郎** 先生  
千葉マリクリニック 院長

聞き手

**石川ひとみ** さん  
歌手



吉川真太郎 先生  
千葉マリクリニック 院長

石川ひとみ さん  
歌手

いま求められる

# “かかりつけ医”

家族全員の健康をサポートするホームドクター

## アイドル時代、私の背中を押してくれた、 かかりつけ医の先生からのアドバイス

**石川** 私は、歌手として毎日忙しく活動している時にB型肝炎を発症し、その後長期間にわたってこの病気と付き合いながら生活しています。ですから、いままで多くのお医者様のお世話になりましたので、今日のお話を楽しみにしていました。

**吉川** 石川さんはどのようなことがきっかけで、B型肝炎が見つかったのですか。

**石川** B型肝炎を発症する1～2年前に、たまたま受けた病院の血液検査で「あなたはB型肝炎のキャリアですよ」と言われていました。そのときは何も症状はないし、キャリアの人がすべて発症するわけではないということで軽く考えていました。ところがある朝、ひどい目まいにおそわれたため受診したところ、発症していることがわかったのです。

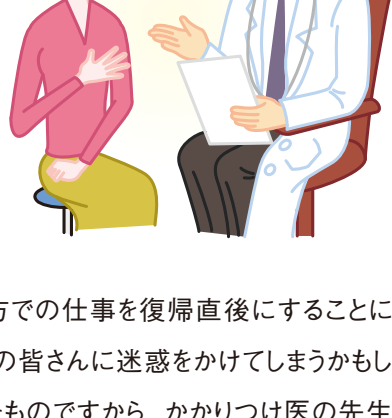
**吉川** 石川さんがとてもお忙しかった頃だと思いますが、お仕事はどうされたのですか。

**石川** 初めてのミュージカルの初日が10日後に控えていました。急に休むわけにもいきませんので、かかりつけ医の先生に「いま重要な仕事をかかえていて、入院するわけにはいかないのですが」という相談をさせていただきました。すると先生は、「お仕事が大切なのはよくわかります。しかし、あなたはお仕事と命のどちらが大切ですか」とおっしゃいました。この一言で私はすぐに入院を決心しました。確かに、命がなければ仕事もできませんし、普通の生活もできないということとを、かかりつけ医の先生からあらためて教わりました。

**吉川** 治療後はスムーズに仕事に復帰できたのでしょうか。

**石川** 1か月ほど入院し、その後1年間は自宅療養をしていました。そして、そろそろ仕事を再開しようかと考えていた矢先に、京都での舞台の仕事の話が舞い込んできました。夏の暑い時期で、長期間で一日も休みがなく、しかも地方での仕事を復帰直後にすることに大きな不安がありました。体調を崩したらまた周りの皆さんに迷惑をかけてしまうかもしれません。しかし、やりたいという気持ちが強かったものから、かかりつけ医の先生に相談してみました。すると、「病気をずっと怖がって生きていくわけにもいかないし、今は状態が安定しているので挑戦してみてもいいと思いますよ」とのアドバイスをいただきました。そこで、何かあった場合のために京都での医療機関を準備し、舞台に挑戦することにしました。

**吉川** B型肝炎からの復帰時に激しい仕事をするのは、医学的見地からみれば一般的にはお勧めはできないと思います。このような時に、患者さんの置かれている状況や気持ちを尊重しながら、肯定的なアドバイスをされた石川さんのかかりつけ医の先生は、本当に素晴らしいですね。



## 大きな病院を受診する前に、 まずは身近なかかりつけ医に相談を

**石川** 私は、このようにかかりつけ医の先生には本当にお世話になっています。しかし、まだ、かかりつけ医の先生をもっていない皆さんも多いのではないのでしょうか。吉川先生はかかりつけ医をもつことのメリットはどんなことだと思いますか。

**吉川** 医師と患者さんが常に近い距離にいるというのが一番のメリットではないでしょうか。家族全員の健康状態、病歴、病状などを把握していますので、何かあったときに素早く対応することができます。また、患者さんは常に生活や仕事などの背景を考慮した治療を受けることができるのも利点ですね。

**石川** では、どのようなかかりつけ医の先生が理想的ですか。

**吉川** 治療がうまくいくときというのは、医師と患者さんが同じ方向を向いて、治療のゴールをしっかりと見据えながら治療を進めているときです。ですから、かかりつけ医には患者さんとの関係をうまくコーディネートできる能力が必要だと思っています。また、普段から患者さんと接していると、その方のそのときの状況がだんだんわかってきて、今日は薬が欲しいのかなとか、今日は点滴で早く治してほしいのかなということが何となくわかってきます。何よりも、普段から接していると調子が悪いときはひと目でわかります。かかりつけ医はこのような感性をもつことも大切ではないのでしょうか。

**石川** 患者さんによっては、いきなり大病院を受診したりするようなケースもあるようですが、やはりまずはかかりつけ医の先生に相談するべきですね。

**吉川** はじめに大病院を受診すると、そこでは医師と患者さんが初対面で、ゼロからの診療がはじまります。私も以前は大病院で診療をしていましたが、初対面の患者さんのすべてを、短期間に理解するのはとても困難でした。やはり、かかりつけ医を通して患者さんの情報が正確に伝えられたうえで、専門診療がおこなわれることが理想的ではないのでしょうか。



## 常に専門病院とも連携し、 患者さんに適切な医療を提供

**石川** 吉川先生は、現在のかかりつけ医として近隣の方々の健康サポートにご活躍されていますが、先生のクリニックについて教えてください。

**吉川** 私は、京葉線の稲毛海岸駅の近くに「千葉マリクリニック」を開院しました。内科、小児科、皮膚科、アレルギー科の診療をしています。多くの診療科をカバーしているので、多くの世代の患者さんが受診されます。患者さんのお父さん・お母さんからお子さん、そしてお祖父さん・お祖母さんまで家族ぐるみで受診されますので、その患者さんの家族全体をよく理解して診療することができます。その患者さんの背景をよく理解したうえで、適切な医療を選択し提供できることが、クリニックのメリットのひとつと考えています。また、千葉大学附属病院や市立海浜病院などの近隣の専門病院との連携を密にしているため、必要な場合はすぐに紹介できるシステムも持っています。

**石川** 吉川先生は、まさに家族全員をサポートするホームドクターですね。さらに高度な検査や治療が必要になった場合でも、多くの紹介先があって、患者さんたちは安心できると思います。吉川先生の、今後のますますのご活躍をお祈りしております。

今日は、ありがとうございました。



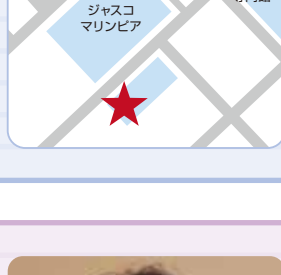
## Profile

### 千葉マリクリニック

院長 **吉川真太郎**(きっかわしんたろう)

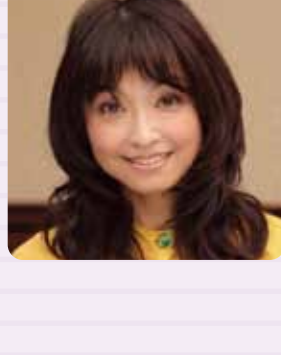
千葉大学医学部卒業。松戸市立病院、船橋市立医療センター、千葉大学医学部附属病院を経て2010年に「千葉マリクリニック」を新規開院。

**資格:** 医学博士、日本内科学会 認定内科医、日本内科学会 総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会 専門医、日本消化器病学会 専門医、日本肝臓学会 専門医、日本医師会 産業医。  
**所属学会:** 日本アレルギー学会、日本小児科学会。



### 石川ひとみ(いしかわひとみ)

1978年歌手デビュー。1981年「まちぶせ」がヒットしNHK紅白歌合戦出場。歌手、声優、司会など幅広く活躍。1987年にB型肝炎発症。入院・療養生活後、翌年復帰。著書「いっしょに泳ごうよ」を出版。復帰後は、本人作詞のCDアルバム「HOME・MADE ーただいまー」や話題の楽器「一五一会」を使った「With みんなの一五一会」シリーズ発売。コンサートや、闘病経験を元に健康に関する講演会など幅広く展開。現在NHKラジオ第1「こうせつと仲間たち」隔週火曜日レギュラー放送中。



製作：株式会社メディカルレビュー社